

## つくしだけよりから

### 引き算のまなざし 足し算のまなざし

算数で鍛えられる日本ではほぼ皆引き算ができます。

例えばお店で七一〇円の買い物をして千円札を出すと、おつりは二九〇円。すぐ分かる。でも、外国で百ドル札で七一ドルの買い物をすると、店員は「七一(セブンティワン)」とまず商品の値段を宣言してから、目の前に一ドル札を一枚ずつ積み上げ「七二、七三、七四、七五」。続いて五ドル札で「八〇」。最後一〇ドル札で「九〇、アンド一〇〇!」。「ヒアユーアー」。足し算でおつりが出てくるのです。

ふと思いました。これは買い物だけでなく、子ども観や成長観にも影響しているかも。引き算の得意な私たちは、子どもを見てすぐに何が欠けているか、何が足りないかと引き算してしまいがち。「だからもう少し頑張つて」と子どもや自分を責めてしまうことも。そこで提案。引き算をやめ、いちど足し算で子どもを見てみませんか? 今のあなたがすばらしい! その子の今を無条件

で受け入れる。そこから一步、また一步と一緒にのぼっていく。今日のぼれた「一步」を共に喜ぶ。

あかちゃんの人形のお世話をして遊んでいた男の子がなぜだか途中で投げ出してしまいました。「あかちゃん一人でさびしいよ。遊んであげて」「もういいの:」見ると傍らに、ちいさなシャツが落ちています。

(ははあくん) 拾い上げ、袖に少しだけ右手をいれて「〇〇くん、あかちゃんの指、見えてきたよ。お手伝いしてくれる?」彼の目はきらり。「いいよ」。すつと戻ってきて、一緒に右手を通した。つづいて、なんと左手もひとりで通してあげられました。あとはふたたび抱っこして、あかちゃん遊び再開です。

なんで遊びが続かないのだろうと考えたときは、引き算のまなざしでした。でもそこで少し立ち止まり、その子の今に寄り添ってみる。受け入れてみる。今、この子は何を願っているのだろう。一緒に袖を通したときの彼の目の輝きが、その答えでした。子どもは、(そして大人も)、足し算のまなざしで心が動き始めます。